

(19) 日本国特許庁 (JP)

(12) 公開特許公報 (A)

(11) 特許出願公開番号

特開2019-82089

(P2019-82089A)

(43) 公開日 令和1年5月30日 (2019.5.30)

(51) Int. Cl.	F I	テーマコード (参考)
EO4H 1/02 (2006.01)	EO4H 1/02	2EO25
EO4B 1/00 (2006.01)	EO4B 1/00 5O1L	

審査請求 未請求 請求項の数 7 O L (全 13 頁)

(21) 出願番号	特願2017-211340 (P2017-211340)	(71) 出願人	303046244
(22) 出願日	平成29年10月31日 (2017.10.31)		旭化成ホームズ株式会社
			東京都千代田区神田神保町一丁目105番地
		(74) 代理人	100106909
			弁理士 棚井 澄雄
		(74) 代理人	100149548
			弁理士 松沼 泰史
		(74) 代理人	100188558
			弁理士 飯田 雅人
		(74) 代理人	100165179
			弁理士 田▲崎▼ 聡
		(74) 代理人	100189337
			弁理士 宮本 龍

最終頁に続く

(54) 【発明の名称】 建物

(57) 【要約】

【課題】ベランダに空調設備の室外機を設置しても、ベランダへの出入りや屋内からの景観に支障が出ることを防止することができるとともに、ベランダ内に熱気がこもることを防止することができる建物を提供する。

【解決手段】躯体に形成された屋内側に窪んだアルコーブ（凹部空間）2に設けられた躯体内ベランダ41と、躯体内ベランダ41と一体に設けられ躯体の外側に突出する突出ベランダ42と、を有するベランダ4が設けられた建物1において、突出ベランダ42は、躯体内ベランダ41の南側に連続する本体部421と、本体部421から東側（第2方向の一方側）に延びる延伸部422と、を有し、延伸部422は、躯体内ベランダ41よりも東側に突出し第4外壁（外壁）34に沿って設けられ、第4外壁34には、居室（屋内）14から延伸部422に出入りするための出入口が設けられていない。

【選択図】 図3

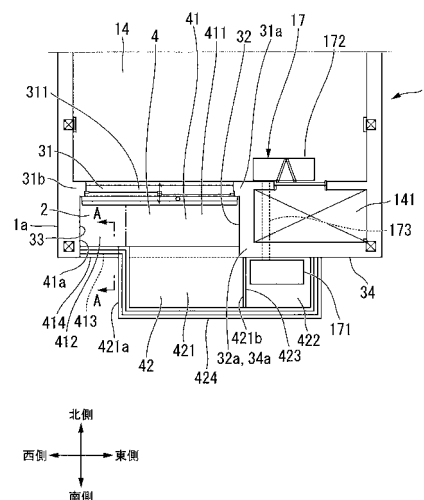


図3

【特許請求の範囲】**【請求項 1】**

躯体に形成された屋内側に窪んだ凹部空間に設けられた躯体内ベランダと、
前記躯体内ベランダと一体に設けられ前記躯体の外側に突出する突出ベランダと、を有するベランダが設けられた建物において、
前記突出ベランダは、前記躯体内ベランダと前記突出ベランダとを結ぶ第 1 方向に前記躯体内ベランダと連続する本体部と、
前記本体部から前記第 1 方向と交差する第 2 方向の一方側に延びる延伸部と、を有し、
前記延伸部は、前記躯体内ベランダよりも前記第 2 方向の一方側に突出し前記躯体の外壁に沿って設けられ、
前記外壁には、屋内から前記延伸部に出入りするための出入口が設けられていないことを特徴とする建物。

10

【請求項 2】

前記延伸部は、前記屋内で使用する空調設備の室外機を設置可能に構成されていることを特徴とする請求項 1 に記載の建物。

【請求項 3】

前記突出ベランダは、前記第 2 方向の他方側の端部が、前記躯体内ベランダの前記第 2 方向の他方側の端部よりも前記第 2 方向の一方側に配置されていて、
前記躯体内ベランダは、前記躯体内ベランダの前記第 2 方向の他方側の端部と、前記突出ベランダの前記第 2 方向の他方側の端部と、を結ぶように設けられた手すりを有し、
前記手すりは、一方の面が前記躯体内ベランダに対向し、他方の面が前記ベランダの外壁に対向していて、前記躯体内ベランダと外壁とを見通し可能に構成されていることを特徴とする請求項 1 または 2 に記載の建物。

20

【請求項 4】

前記手すりは、前記躯体内ベランダにおける前記第 1 方向の前記突出ベランダに近接する側の最縁部よりも内側において床部から立ち上がる止水壁の上部に設けられていることを特徴とする請求項 3 に記載の建物。

【請求項 5】

前記躯体内ベランダは、前記建物における前記第 2 方向の端部に寄せて設けられていることを特徴とする請求項 1 乃至 4 のいずれか一項に記載の建物。

30

【請求項 6】

前記突出ベランダは、前記建物における前記第 2 方向の中央部に設けられていることを特徴とする請求項 1 乃至 5 のいずれか一項に記載の建物。

【請求項 7】

前記突出ベランダには、前記延伸部を仕切る仕切りが設けられていることを特徴とする請求項 1 乃至 6 のいずれか一項に記載の建物。

【発明の詳細な説明】**【技術分野】****【0001】**

本発明は、建物に関する。

40

【背景技術】**【0002】**

建物に設けられるベランダとして、躯体の内側に窪んだ形状の凹部空間に設けられた躯体内ベランダと、躯体の外側に突出する突出ベランダと、が連続して一体となったベランダが知られている（例えば、特許文献 1 参照）。ベランダには、屋内で使用する空調設備の室外機などを設置することがある。

【先行技術文献】**【特許文献】****【0003】**

【特許文献 1】特開 2002 - 54311 号公報

50

【発明の概要】

【発明が解決しようとする課題】

【0004】

しかしながら、空調設備の室外機をベランダの出入口付近に設置すると、居住者がベランダに出入りしにくいことがあるとともに、屋内から出入口を介して空調設備の室外機が見えてしまい室内からの景観が良くないことがある。

また、室外機をベランダの周縁部に沿って配置すると、室外機の排気（熱気）がベランダの内側に向かって排出されるため、ベランダ内に熱気がこもりやすいという問題もある。

【0005】

10

そこで、本発明は、ベランダに空調設備の室外機を設置しても、ベランダへの出入りや屋内からの景観に支障が出ることを防止することができるとともに、ベランダ内に熱気がこもることを防止することができる建物を提供することを目的とする。

【課題を解決するための手段】

【0006】

上記目的を達成するため、本発明に係る建物は、躯体に形成された屋内側に窪んだ凹部空間に設けられた躯体内ベランダと、前記躯体内ベランダと一体に設けられ前記躯体の外側に突出する突出ベランダと、を有するベランダが設けられた建物において、前記突出ベランダは、前記躯体内ベランダと前記突出ベランダとを結ぶ第1方向に前記躯体内ベランダと連続する本体部と、前記本体部から前記第1方向と交差する第2方向の一方側に延びる延伸部と、を有し、前記延伸部は、前記躯体内ベランダよりも前記第2方向の一方側に突出し前記躯体の外壁に沿って設けられ、前記外壁には、屋内から前記延伸部に出入りするための出入口が設けられていないことを特徴とする。

20

【0007】

また、本発明に係る建物では、前記延伸部は、前記屋内で使用する空調設備の室外機を設置可能に構成されていてもよい。

【0008】

本発明では、突出ベランダの延伸部は、躯体の外壁に沿って設けられ、外壁には、屋内から延伸部に出入りするための出入口が設けられていない。これにより、ベランダに空調設備の室外機を設置する場合には、延伸部に空調設備の室外機を設置すれば、ベランダへの出入りや屋内からの景観に支障が出ることを防止することができるとともに、ベランダ内に熱気がこもることを防止することができる。

30

また、延伸部に空調設備の室外機を設置した場合でも、躯体内ベランダおよび突出ベランダの本体部から空調設備の室外機のメンテナンスを容易に行うことができる。

また、空調設備の室外機以外の設備機器や収納庫などの什器をベランダに設置する場合も、同様にベランダへの出入りや屋内からの景観に支障が出ることを防止することができる。

【0009】

また、本発明に係る建物では、前記突出ベランダは、前記第2方向の他方側の端部が、前記躯体内ベランダの前記第2方向の他方側の端部よりも前記第2方向の一方側に配置されていて、前記躯体内ベランダは、前記躯体内ベランダの前記第2方向の他方側の端部と、前記突出ベランダの前記第2方向の他方側の端部と、を結ぶように設けられた手すりを有し、前記手すりは、一方の面が前記躯体内ベランダに対向し、他方の面が前記ベランダの外部に対向していて、前記躯体内ベランダと外部とを見通し可能に構成されていてもよい。

40

突出ベランダは、第2方向の他方側の端部が、躯体内ベランダの第2方向の他方側の端部よりも第2方向の一方側に配置されていることにより、ベランダにおける第2方向の他方側の部分は、躯体内ベランダのみで構成されていて第1方向の寸法が小さくなる。これに対し、本発明では、この部分に設けられる手すりが躯体内ベランダと外部とを見通し可能に構成されていることにより、ベランダの第2方向の他方側の部分における圧迫感を緩

50

和することができる。

【 0 0 1 0 】

また、本発明に係る建物では、前記手すり、前記躯体内ベランダにおける前記第 1 方向の前記突出ベランダに近接する側の最縁部よりも内側において床部から立ち上がる止水壁の上部に設けられていてもよい。

このような構成とすることにより、突出ベランダ側の最縁部に止水壁が設けられている場合と比べて、屋内から外側の下方に向かう視線が遮られにくくなる。

【 0 0 1 1 】

また、本発明に係る建物では、前記躯体内ベランダは、前記建物における前記第 2 方向の端部に寄せて設けられていてもよい。

このような構成とすることにより、躯体における躯体内ベランダが寄せられている端部側から躯体内ベランダのドレンを躯体の外部へ引き出すことができる。

【 0 0 1 2 】

また、本発明に係る建物では、前記突出ベランダは、前記建物における前記第 2 方向の中央部に設けられていてもよい。

このような構成とすることにより、突出ベランダが建物の外観におけるアクセントとなるため、建物の意匠性を向上させることができる。

【 0 0 1 3 】

また、本発明に係る建物では、前記突出ベランダには、前記延伸部を仕切る仕切りが設けられていてもよい。

このような構成とすることにより、延伸部を空調設備の室外機などを置くスペースとして使用する場合に、このスペースを仕切ることができる。仕切りによって延伸部へのアクセスを制限できることにより、室外機の上に人が載ったり物を載せたりすることを防止することができる。

【 発明の効果 】

【 0 0 1 4 】

本発明によればベランダに空調設備の室外機を設置しても、ベランダへの出入りや屋内からの景観に支障が出ることを防止することができるとともに、ベランダ内に熱気がこもることを防止することができる。

【 図面の簡単な説明 】

【 0 0 1 5 】

【 図 1 】 本発明の実施形態による建物の一例を示す斜視図である。

【 図 2 】 本発明の実施形態による建物の一例を示す南側の立面図である。

【 図 3 】 本発明の実施形態による建物の 3 階の南側の部分を示す平面図である。

【 図 4 】 止水壁を説明する図で、図 3 の A - A 線断面に対応する図である。

【 図 5 】 本発明の実施形態の変形例による建物の 3 階の南側の部分を示す平面図である。

【 図 6 】 本発明の実施形態による建物の一例を示す他の斜視図 1 である。

【 図 7 】 本発明の実施形態による建物の一例を示す他の斜視図 2 である。

【 図 8 】 本発明の実施形態による建物の一例を示す他の正面図（南側の立面図）である。

【 図 9 】 本発明の実施形態による建物の一例を示す背面図（北側の立面図）である。

【 図 1 0 】 本発明の実施形態による建物の一例を示す右側面図（東側の立面図）である。

【 図 1 1 】 本発明の実施形態による建物の一例を示す左側面図（西側の立面図）である。

【 図 1 2 】 本発明の実施形態による建物の一例を示す平面図（屋根伏図）である。

【 図 1 3 】 図 1 0 の D - E 部分における図 8 の B - B 線拡大断面図である。

【 図 1 4 】 図 1 0 の D - E 部分における図 8 の C - C 線拡大断面図である。

【 図 1 5 】 本発明の実施形態による建物の一例を示す斜視参考図 1 である。

【 図 1 6 】 本発明の実施形態による建物の一例を示す斜視参考図 2 である。

【 発明を実施するための形態 】

【 0 0 1 6 】

以下、本発明の実施形態による建物について、図 1 乃至図 4 に基づいて説明する。

10

20

30

40

50

図 1 および図 2 に示すように、本実施形態による建物 1 は、南北方向に長い長方形状で南側が道路に接し、北側、東側、西側が隣地と接している土地に建てられている。建物 1 は、4 階建てで、平面形状が南北に長い長方形状に形成されている。本実施形態では、南北方向が建物 1 の奥行方向（第 1 方向）となり、東西方向が建物 1 の間口方向（第 2 方向）となる。

【0017】

建物 1 は、1 階部分の南側にピロティ 1 1 が設けられていて、ピロティ 1 1 の北側に玄関 1 2 および 2 ～ 3 階に繋がる階段室 1 3 が設けられている。建物 1 の内部には、ピロティ 1 1 を介して入るように構成されている。

建物 1 の 2 階、3 階、4 階の屋内には、居室 1 4 が設けられている。4 階の南側の外壁 1 5 a は、1 ～ 3 階の南側の外壁 1 5 b よりも北側に配置されている。建物 1 の 4 階には、南側にベランダ 1 6 が設けられている。

【0018】

図 1 ～ 図 3 に示すように、建物 1 の 3 階は、西側の部分が北側に窪んでいてアルコーブ（凹部空間）2 が形成されている。アルコーブ 2 は、北側、東側および西側が建物 1 の外壁 3 1 ～ 3 3 に囲まれている。アルコーブ 2 の北側に配置された外壁 3 1 を第 1 外壁 3 1 とし、アルコーブ 2 の東側に配置された外壁 3 2 を第 2 外壁 3 2 とし、アルコーブ 2 の西側に配置された外壁 3 3 を第 3 外壁 3 3 とする。

【0019】

第 1 外壁 3 1 は、建物 1 の 3 階の東側の部分（アルコーブ 2 が形成されていない部分）の南側の外壁 3 4（以下、第 4 外壁 3 4 とする）よりも 90 ～ 120 cm 北側に配置されている。本発明における躯体とは、第 1 ～ 第 4 外壁 3 1 ～ 3 4 など建物 1 を構成する構造部を示している。

【0020】

図 3 に示すように、第 2 外壁 3 2 は、第 1 外壁 3 1 の東側の端部 3 1 a から南側に延びている。第 2 外壁 3 2 は、建物 1 における東西方向の中間部に配置されている。

第 3 外壁 3 3 は、第 1 外壁 3 1 の西側の端部 3 1 b から南側に延びている。第 3 外壁 3 3 は、建物 1 における西側の端部 1 a に配置されている。

第 2 外壁 3 2 および第 3 外壁 3 3 は、南北方向の寸法が第 1 外壁 3 1 と第 4 外壁 3 4 との南北方向の間隔（90 ～ 120 cm）と略同じ寸法に設定されている。第 2 外壁 3 2 の南側の端部 3 2 a は、第 4 外壁 3 4 の西側の端部 3 4 a と接続されている。

【0021】

アルコーブ 2 の北側には、第 1 外壁 3 1 を介して建物 1 の居室 1 4 が設けられていて、アルコーブ 2 の東側には第 2 外壁 3 2 を介して居室 1 4 から使用する収納部 1 4 1 が設けられている。

第 1 外壁 3 1 には、掃き出し型の引違サッシ 3 1 1 が設けられている。

【0022】

ベランダ 4 は、アルコーブ 2 に設けられた躯体内ベランダ 4 1 と、躯体内ベランダ 4 1 の南側に躯体内ベランダ 4 1 と一体に設けられ第 4 外壁 3 4 よりも南側に突出する突出ベランダ 4 2 と、を有している。

【0023】

躯体内ベランダ 4 1 は、アルコーブ 2 に設けられている。すなわち、躯体内ベランダ 4 1 は、建物 1 における西側部分に配置されている。躯体内ベランダ 4 1 の西側の端部 4 1 a は、建物 1 における西側の端部 1 a に配置されている。

躯体内ベランダ 4 1 は、第 1 ～ 第 3 外壁 3 1 ～ 3 3 に囲まれている。躯体内ベランダ 4 1 は、第 1 外壁 3 1 の引違サッシ 3 1 1 を開口することにより、3 階の居室 1 4 に出入りできるように構成されている。

【0024】

突出ベランダ 4 2 は、躯体内ベランダ 4 1 の南側に設けられた本体部 4 2 1 と、本体部 4 2 1 から東側にのびて躯体内ベランダ 4 1 よりも東側に設けられた延伸部 4 2 2 と、を

10

20

30

40

50

有している。

【 0 0 2 5 】

本体部 4 2 1 は、西側の端部 4 2 1 a が駆体内ベランダ 4 1 の西側の端部 4 1 a よりも東側に配置されている。本実施形態では、本体部 4 2 1 の西側の端部 4 2 1 a は、駆体内ベランダ 4 1 の西側の端部 4 1 a よりも 9 0 ~ 1 2 0 c m の東側に配置されている。

本体部 4 2 1 は、東側の端部 4 2 1 b (延伸部 4 2 2 との境界部) が駆体内ベランダ 4 1 の東側の端部 4 1 b と東西方向に同じ位置に配置されている。

駆体内ベランダ 4 1 のうちの、東側の部分で南側に突出ベランダ 4 2 が配置されている部分 (図 3 の一点鎖線よりも右側の部分) を第 1 駆体内ベランダ 4 1 1 とし、西側の部分で南側に突出ベランダ 4 2 が配置されていない部分 (図 3 の一点鎖線よりも左側の部分) を第 2 駆体内ベランダ 4 1 2 とする。

10

【 0 0 2 6 】

延伸部 4 2 2 は、第 4 外壁 3 4 の南側に沿って設けられている。本実施形態では、延伸部 4 2 2 の東西方向の寸法は、本体部 4 2 1 の西側の端部 4 2 1 a と駆体内ベランダ 4 1 の西側の端部 4 1 a との間隔 (9 0 ~ 1 2 0 c m) と略同じ寸法となるように設定されている。このため、本実施形態では、駆体内ベランダ 4 1 の東西方向の寸法と突出ベランダ 4 2 の東西方向の寸法とは略同じ寸法となっている。

【 0 0 2 7 】

第 4 外壁 3 4 には、居室 1 4 から延伸部 4 2 2 に出入りするための出入口が設けられていない。このため、居室 1 4 から延伸部 4 2 2 にアクセスするには、第 1 外壁 3 1 に設けられた引違サッシ 3 1 1 を開けて、駆体内ベランダ 4 1 および突出ベランダ 4 2 の本体部 4 2 1 を介してアクセスするように構成されている。

20

【 0 0 2 8 】

本実施形態では、延伸部 4 2 2 には、居室 1 4 で使用する空調設備 1 7 の室外機 1 7 1 が設置されている。空調設備 1 7 の室内機 1 7 2 は、居室 1 4 における収納部 1 4 1 の上方に設けられていて、室内機 1 7 2 から室外機 1 7 1 に接続される配管 1 7 3 は、室内機 1 7 2 から収納部 1 4 1 の上方を通り、収納部 1 4 1、または第 4 外壁 3 4 の内部または第 4 外壁 3 4 の外部を通して下側に延びて室外機 1 7 1 に接続されている。

【 0 0 2 9 】

本体部 4 2 1 と延伸部 4 2 2 との境界部には、両者を仕切る開閉可能または着脱可能な仕切り 4 2 3 が設けられている。常時は、本体部 4 2 1 と延伸部 4 2 2 との境界部に仕切り 4 2 3 を取り付けた (あるいは閉鎖した) 状態としておくことで、例えば、幼児が延伸部 4 2 2 に進入して室外機 1 7 1 の上に登り転落するような事故を未然に防ぐことができる。

30

本体部 4 2 1 と延伸部 4 2 2 との境界部から仕切り 4 2 3 を取り外した (あるいは開放した) 状態とすることで、延伸部 4 2 2 に進入して室外機 1 7 1 のメンテナンス等を行うことができる。

【 0 0 3 0 】

突出ベランダ 4 2 は、南側の縁部、東側の縁部および西側の縁部に沿って第 1 手すり 4 2 4 が設けられている。第 1 手すり 4 2 4 は、例えば、突出ベランダ 4 2 の床面から 1 1 0 c m ~ 1 3 0 c m 程の高さで、透視性を有しない材料及び形状からなり、第 1 手すり 4 2 4 を介してベランダ 4 の内部からベランダ 4 の外部、およびベランダ 4 の外部からベランダ 4 の内部を見通せないように構成されている。

40

【 0 0 3 1 】

第 2 駆体内ベランダ 4 1 2 の南側の縁部近傍には、南側の最縁部よりもやや北側に床面から上方に立ち上がった止水壁 4 1 3 が設けられ、止水壁 4 1 3 の上部に第 2 手すり 4 1 4 が設けられている。

図 4 に示すように、建物 1 は、外周部に設けられる梁部 1 8 の外側に外装パネル 1 9 が設けられている。外装パネル 1 9 には、軽量気泡コンクリート (A L C) パネルや P C パネルなどが用いられている。

50

止水壁 4 1 3 は、2 階の梁部 1 8 の上に設けられ梁部 1 8 に固定される立ち上がり部 4 1 5 と、立ち上がり部 4 1 5 と連続し外装パネル 1 9 に固定される防水鋼板 4 1 6 と、を有している。立ち上がり部 4 1 5 は、南側に設けられた外装パネル 1 9 よりも北側に設けられている。立ち上がり部 4 1 5 の上端部 4 1 5 a は、第 2 躯体内ベランダ 4 1 2 の床部 4 1 2 a および外装パネル 1 9 の上端部 1 9 a よりも上側に配置されている。

【0032】

防水鋼板 4 1 6 の上部には、水切り金物 4 1 7 が設けられている。水切り金物 4 1 7 は、防水鋼板 4 1 6 に堆積した塵埃が雨水とともに外装パネル 1 9 の表面に伝い落ちることを防止するために設けられている。水切り金物 4 1 7 は、第 2 躯体内ベランダ 4 1 2 の南側の縁部全体にわたって設けられている。

10

水切り金物 4 1 7 は、外装パネル 1 9 の表面側から立ち上がり部 4 1 5 に向かうに従って漸次上側に向かうように傾斜する板金で形成されている。

【0033】

第 2 手すり 4 1 4 は、上端部 4 1 4 a が第 1 手すり 4 2 4 の上端部 4 2 4 a と略同じ高さとなるように形成されている。第 2 手すり 4 1 4 は、東西方向に延在するように設けられている。第 2 手すり 4 1 4 は、例えば、透明の亚克力板や、上下方向に延び東西方向に間隔をあけて配列された複数の棧や、スリット状の開口部が形成された板状の部材などからなり、第 2 躯体内ベランダ 4 1 2 から外側を見通せるように構成されている。

【0034】

図 1 および図 2 に示すように、本実施形態では、2 階の南側の外壁 1 5 b にサッシ 5 が設けられている。サッシ 5 は、建物 1 の東西方向の中間部に設けられていて、突出ベランダ 4 2 の下側に配置されている。

20

【0035】

次に、上述した本発明の実施形態による建物の作用・効果について図面を用いて説明する。

上述した本発明の実施形態による建物 1 では、突出ベランダ 4 2 の延伸部 4 2 2 は、第 4 外壁 3 4 に沿って設けられ、第 4 外壁 3 4 には、居室 1 4 から延伸部 4 2 2 に入出入りするための出入口が設けられていない。これにより、ベランダ 4 に空調設備 1 7 の室外機 1 7 1 を設置する場合には、延伸部 4 2 2 に空調設備 1 7 の室外機 1 7 1 を設置すれば、ベランダ 4 への出入りや居室 1 4 からの景観に支障が出ることを防止することができる。また、ベランダ 4 内に熱気がこもることを防止することができる。

30

また、延伸部 4 2 2 に空調設備 1 7 の室外機 1 7 1 を設置した場合でも、躯体内ベランダ 4 1 および突出ベランダ 4 2 の本体部 4 2 1 から空調設備 1 7 の室外機 1 7 1 のメンテナンスを容易に行うことができる。

【0036】

また、本実施形態による建物 1 では、突出ベランダ 4 2 の本体部 4 2 1 の西側の端部 4 2 1 a が、躯体内ベランダ 4 1 の西側の端部 4 1 a よりも東側に配置されていることにより、ベランダ 4 における西側の部分は、躯体内ベランダ 4 1 の第 2 躯体内ベランダ 4 1 2 のみで構成されていて東西方向の寸法が小さくなる。

これに対し、本実施形態では、第 2 躯体内ベランダ 4 1 2 に設けられる第 2 手すり 4 1 4 が躯体内ベランダ 4 1 と外部とを見通し可能に構成されていることにより、ベランダ 4 の西の部分における圧迫感を緩和することができる。

40

【0037】

また、本実施形態による建物 1 では、第 2 手すり 4 1 4 は、躯体内ベランダ 4 1 における南側の最縁部よりも内側において床部 4 1 2 a から立ち上がる止水壁 4 1 3 の上部に設けられている。これにより、突出ベランダ 4 2 側の最縁部に止水壁 4 1 3 が設けられている場合と比べて、居室 1 4 から外側の下方に向かう視線が遮られにくくなる。

【0038】

また、本実施形態による建物 1 では、躯体内ベランダ 4 1 は、建物 1 における西側の端部 1 a に寄せて設けられていることにより、建物 1 における西側の端部 1 a から躯体内ベ

50

ランダ 4 1 のドレンを建物 1 の外部へ引き出すことができる。

【 0 0 3 9 】

また、本実施形態による建物 1 では、突出ベランダ 4 2 は、建物 1 における東西方向の中央部に設けられていることにより、突出ベランダ 4 2 が建物 1 の外観におけるアクセントとなるため、建物 1 の意匠性を向上させることができる。

本実施形態では、突出ベランダ 4 2 の下側に 2 階のサッシ 5 が設けられていることにより、建物 1 の意匠性を更に向上させることができる。

【 0 0 4 0 】

また、本実施形態による建物 1 では、突出ベランダ 4 2 には、延伸部 4 2 2 を仕切る仕切り 4 2 3 が設けられていることにより、延伸部 4 2 2 を空調設備 1 7 の室外機 1 7 1 などを置くスペースとして使用する場合に、このスペースを仕切ることができる。仕切り 4 2 3 によって延伸部 4 2 2 へのアクセスを制限できることにより、室外機 1 7 1 の上に人が載ったり物を載せたりすることを防止することができる。

【 0 0 4 1 】

以上、本発明による建物の実施形態について説明したが、本発明は上記の実施形態に限定されるものではなく、その趣旨を逸脱しない範囲で適宜変更可能である。

例えば、上記の実施形態では、延伸部 4 2 2 は、空調設備 1 7 の室外機 1 7 1 を設置するように構成されているが、空調設備 1 7 の室外機 1 7 1 以外の設備機器や収納庫などの什器を設置可能に構成されていてもよい。このような場合もベランダ 4 への出入りや居室 1 4 からの景観に支障が出ることを防止することができる。

【 0 0 4 2 】

また、上記の実施形態では、ベランダ 4 は、突出ベランダ 4 2 の本体部 4 2 1 の西側の端部 4 2 1 a が、躯体内ベランダ 4 1 の西側の端部 4 1 a よりも東側に配置されている。これに対し、図 5 に示す建物 1 B のベランダ 4 B のように、突出ベランダ 4 2 B の本体部 4 2 1 B の西側の端部 4 2 1 a が、躯体内ベランダ 4 1 の西側の端部 4 1 a と東西方向に同じ位置に配置されていてもよい。

【 0 0 4 3 】

また、上記の実施形態では、第 2 躯体内ベランダ 4 1 2 の第 2 手すり 4 1 4 は、躯体内ベランダ 4 1 と外部とを見通し可能に構成されているが、見通せないように構成されていてもよい。

また、上記の実施形態では、突出ベランダ 4 2 の第 1 手すり 4 2 4 は、透視性を有しない材料及び形状からなりベランダ 4 の内部からベランダ 4 の外部、およびベランダ 4 の外部からベランダ 4 の内部を見通せないように構成されているが、見通せるように構成されていてもよい。

突出ベランダ 4 2 の第 1 手すり 4 2 4、および第 2 躯体内ベランダ 4 1 2 の第 2 手すり 4 1 4 は、転落防止のための柵であれば、棧状のもの、パネル状のもの、腰壁状のものなど、任意の形態であってよい。

【 0 0 4 4 】

また、上記の実施形態では、躯体内ベランダ 4 1 における南側の最縁部よりも内側に床部 4 1 2 a から立ち上がる止水壁 4 1 3 が設けられているが、ベランダ 4 における止水の形態は適宜設定されてよい。

また、上記の実施形態では、第 2 手すり 4 1 4 は、止水壁 4 1 3 の上部に設けられているが、床部 4 1 2 a に直接設けられていてもよい。

また、上記の実施形態では、躯体内ベランダ 4 1 は、建物 1 における西側の端部 1 a に寄せて設けられているが、建物 1 における東側の端部や東西方向の中間部に設けられていてもよい。

【 0 0 4 5 】

また、上記の実施形態では、突出ベランダ 4 2 は、建物 1 における東西方向の中央部に設けられているが、建物 1 における東側の端部や西側の端部 1 a に寄せて設けられていてもよい。

10

20

30

40

50

また、上記の実施形態では、突出ベランダ 4 2 の下側に 2 階のサッシ 5 が設けられているが、サッシ 5 は設けられていなくてもよい。

また、上記の実施形態では、突出ベランダ 4 2 には、本体部 4 2 1 と延伸部 4 2 2 を仕切る仕切り 4 2 3 が設けられているが、仕切り 4 2 3 は設けられていなくてもよい。

【 0 0 4 6 】

また、上記の実施形態では、建物は南北に長い形状に形成され、3 階の南側にベランダ 4 が設けられているが、建物 1 の形状やベランダ 4 が設けられる位置は、適宜設定されてよい。

【符号の説明】

【 0 0 4 7 】

- 1, 1 B 建物
- 2 アルコーブ（凹部空間）
- 4, 4 B ベランダ
- 1 7 空調設備
- 3 4 第 4 外壁（外壁）
- 4 1 躯体内ベランダ
- 4 2, 4 2 B 突出ベランダ
- 4 1 1 a 床部
- 4 1 3 止水壁
- 4 1 4 第 2 手すり（手すり）
- 4 2 1, 4 2 1 B 本体部
- 4 2 2 延伸部
- 4 2 3 仕切り
- 1 7 1 室外機

10

20

【 図 1 】

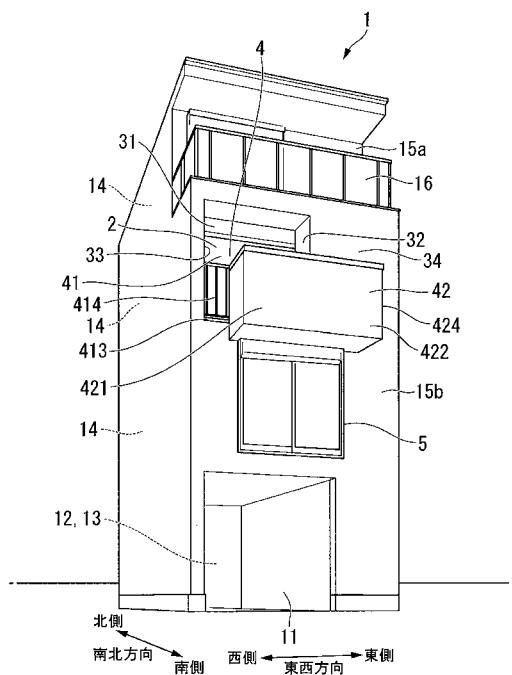


図1

【 図 2 】

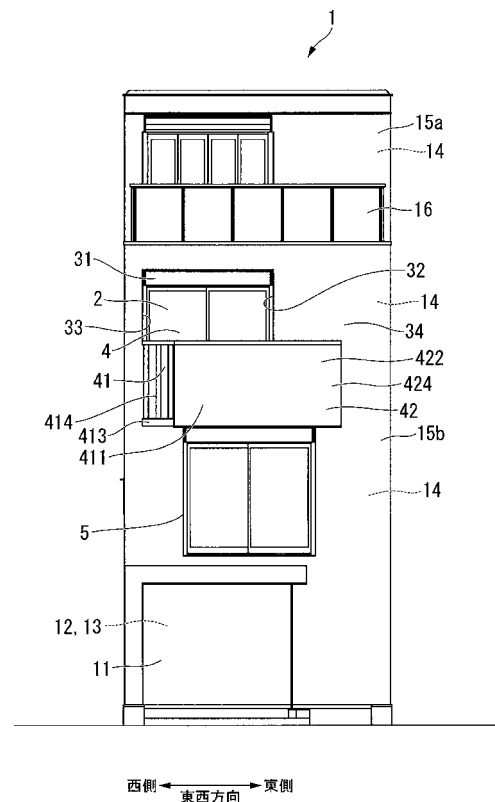


図2

【 図 3 】

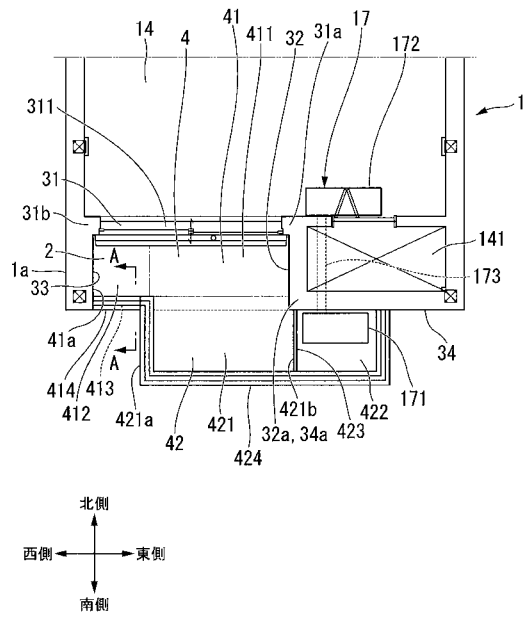


図3

【 図 4 】

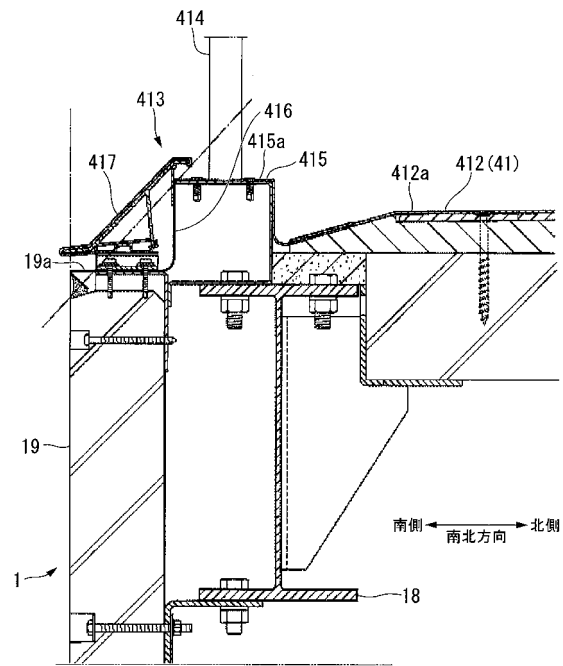


図4

【 図 5 】

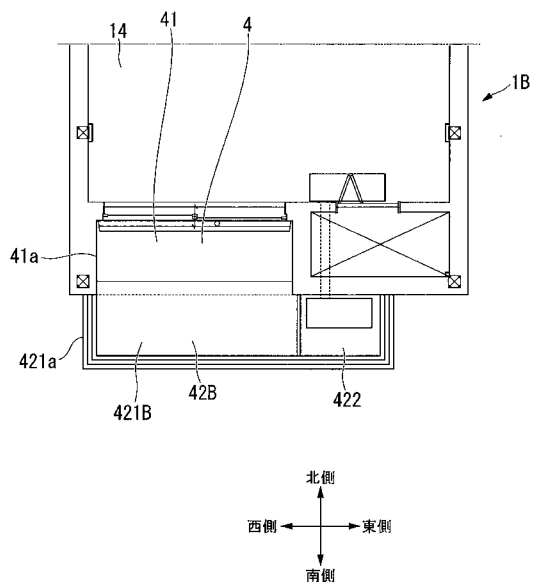


図5

【 図 6 】

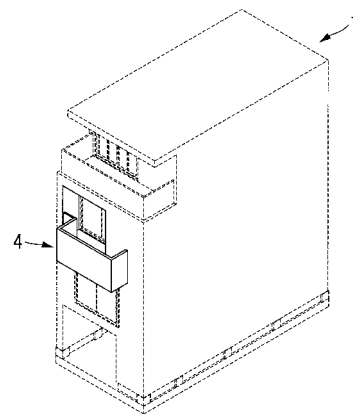


図6

【図 7】

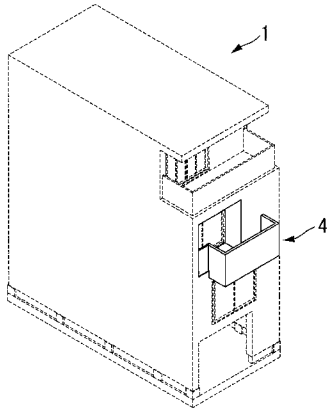


図7

【図 8】

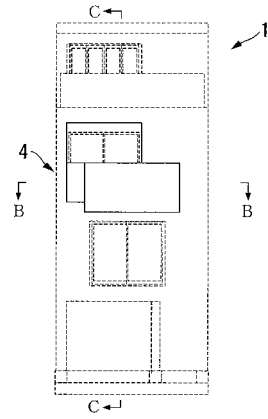


図8

【図 9】

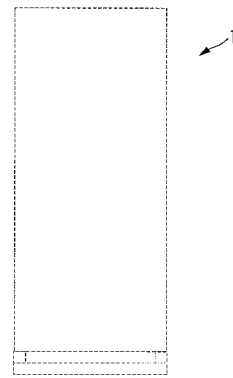


図9

【図 10】

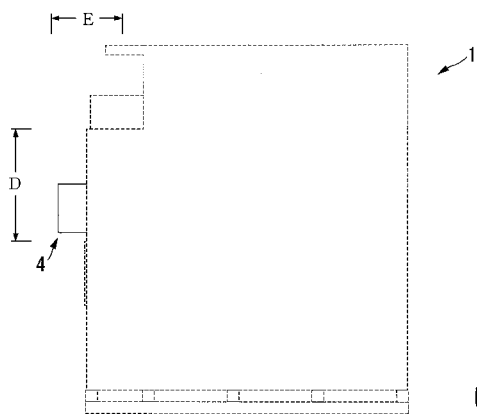


図10

【図 12】

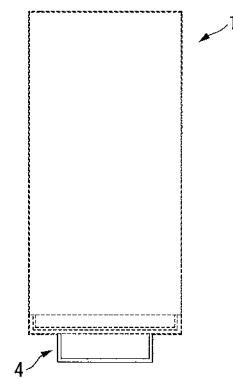


図12

【図 11】

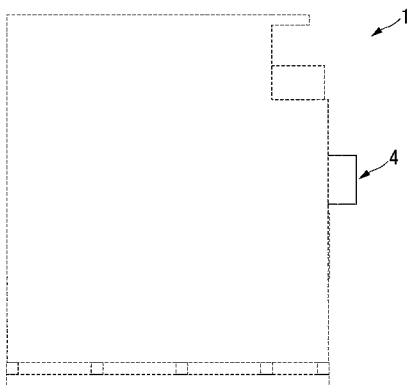


図11

【図 13】

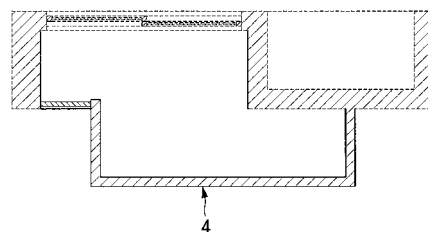


図13

【 図 1 4 】

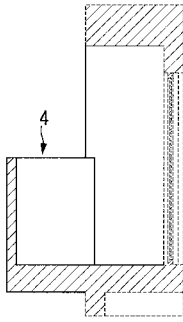


図14

【 図 1 5 】

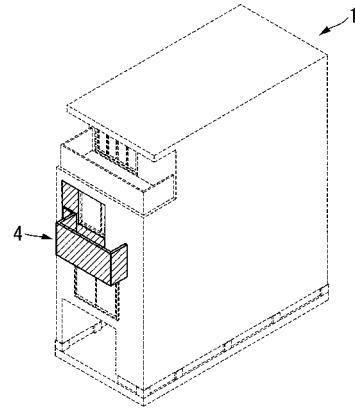


図15

【 図 1 6 】

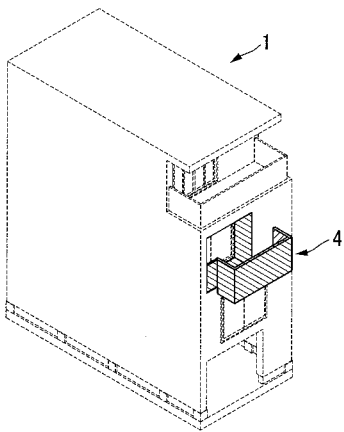


図16

フロントページの続き

(72)発明者 八巻 勝則

東京都千代田区神田神保町一丁目 1 0 5 番地 旭化成ホームズ株式会社内

Fターム(参考) 2E025 AA12